

市長定例記者会見次第

令和3年9月29日（水）
午前10時30分～

1. あいさつ

2. 発表内容

ページ

(1) 【安心して療養するために】

新型コロナウイルス感染に伴う自宅療養者への支援・PCR簡易検査キットの配布 1

(2) 【県北初！市民の命を繋ぐ救急・消防体制】

『搬送待機ステーション』の設置と隊員装着資器材の個人貸与 3

(3) 【コロナ禍での事業活動をより安心して行うために】

市内事業者の換気対策などを支援します！ 5

(4) 新型コロナウイルスワクチン予約・接種状況 6

(5) 【深谷市独自の3段階調査の結果】

深谷市ヤングケアラー支援のスタート 7

3. その他

(1) 小惑星「Shibusawaeiichi（渋沢栄一）」命名決定にかかる報告会

(2) 10月からデザインが変わるごみ収集車両を西玄関前に展示

次回日程 定例記者会見

会場：市長公室

日時：令和3年10月27日（水）午前10時30分～11時30分

安心して療養するために
新型コロナウイルス感染に伴う自宅療養者への支援・
PCR簡易検査キットの配布

■ 目的等

新型コロナウイルスに感染し、自宅療養される方やその同居される家族が安心して療養生活を過ごすために、食料品や日用品を無償で提供するなどの生活支援を実施します。

また、新型コロナウイルス感染症の早期の発見および、その後の対応につなげることを目的として、ワクチン接種の対象にならない12歳未満の子どもの希望者に対し、『PCR簡易検査キット』を無償で配布します。

■ 開始日

10月1日（金）

■ 概要および実施主体

・ 自宅療養者等に対する生活支援

【実施主体／深谷市社会福祉協議会】

①食料品支援

自宅療養している感染者及び同居家族へ5日分の食料を届けます

②日用品支援

自宅療養者（陽性者）のいる世帯へ届けます

③ゴミ回収支援

自宅療養でゴミ出しが出来ないかたを対象に週1回、可燃ゴミの回収を行います

④パルスオキシメーターの貸し出し

自宅療養者（陽性者）に対しパルスオキシメーターを貸し出します

⑤キャンピングカー（療養スペース）の貸し出し

感染された方（陽性者）と感染されていないかた（濃厚接触者）の居住スペースを分けることが難しい世帯への支援として、療養スペースとしてキャンピングカーを貸し出します。

・PCR簡易検査キットの配布

【実施主体／福祉政策課】

12歳未満の希望者を対象に無償配布（1人1回限り）

■ 予算額

127,276千円

（内 訳）

委託料：78,694千円（深谷市社会福祉協議会への委託費）

消耗品費：46,860千円（PCR簡易検査キット購入費）

印刷製本費：700千円（周知用チラシ）

人件費等：1,022千円（会計年度任用職員）

■ 問い合わせ先

深谷市役所福祉健康部 福祉政策課 ☎048 - 568 - 5041

県北初！市民の命を繋ぐ救急・消防体制 『搬送待機ステーション』の設置と 隊員装着資器材の個人貸与

【『搬送待機ステーション』の設置】

■ 目的等

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、救急車の搬送先がすぐに決まらない『救急搬送困難事案』が全国的な問題となっています。救急搬送困難事案では、救急車内待機が長時間となり、酸素吸入が必要な場合などでは救急車の酸素ボンベが足りなくなることも想定されます。また、一度出動した救急車は、長時間に渡り次の救急要請に対応することが不可能となります。

今後、さらなる感染が拡大した場合でも安定した救急サービスを提供するため、救急体制の充実・強化を図るものです。

■ 『搬送待機ステーション』とは

感染症対策用の陰圧式エアートントを消防本部の屋内錬成場内に設置し2人分の患者を収容するための簡易ベッド、安定した酸素吸入を行うための酸素ボンベ、患者の血中酸素濃度や脈拍など、容体を把握するためのベッドサイドモニターなどを配置し、新型コロナウイルス陽性患者の搬送先が長時間決まらない場合、一時的な待機場所として運用するものです。

■ 運用開始時期

1 1 月中に開始予定

■ 設置場所

深谷市消防本部 屋内錬成場（訓練場）内

■ 効果

陰圧式のエアートントであるため、テント内部の空気が外部に拡散されることなく、安定した酸素吸入が可能となるほか、患者のトイレ確保問題の解消、救急車内での長時間待機による不安感の軽減などが期待できます。また、患者がステーション内で待機する間、救急車は他の救急要請にも対応が可能となるなど、さらなる救急体制の充実・強化が図れるものです。

■ 予算額

12, 114千円

【内訳】

消耗品費：154千円（飛沫拡散防止カバー購入）

委託料：220千円（特別管理産業廃棄物運搬及び処理）

備品購入費：11, 740千円（エアーテント、酸素ボンベ等購入）

【隊員装着資器材の個人貸与】

■ 隊員装着資器材整備

火災や水難救助等の災害現場で、隊員が使用する空気呼吸器の面体マスクや潜水用マスク及びスノーケル等の資器材は、隊員の口等に直接接触する資器材でありながら、複数の隊員で共用しているのが現状です。

隊員間での新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、個人に貸与する資器材を整備します。

■ 予算額

8, 811千円

【内訳】

消耗品費：275千円（マウスピース、タイラップ購入）

備品購入費：8, 536千円（面体マスク、潜水用マスク、スノーケル購入）

■ 問い合わせ先

【搬送待機ステーションについて】

深谷市消防本部 警防課 ☎048 - 571 - 0914

【隊員装着資器材の個人貸与について】

深谷市消防本部 消防総務課 ☎048 - 571 - 0900

コロナ禍での事業活動をより安心して行うために 市内事業者の換気対策などを支援します！

■ 目的等

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策と事業活動の両立において、店舗や事業所の換気対策が有益と考えられています。そこで、換気設備の導入と、発熱者を確認し注意を促すためのサーマルカメラの購入などについて支援し、経済活動の継続性を図ります。

■ 事業の概要

・ 対象者

深谷市内において営利を目的とした事業を営んでいるかたで、市内に事業所等を有しているかた。

・ 支援内容

対象の工事及び備品購入に対し補助金を支給します。

ア) 対象の工事 外気と内気の空気の入れ替えを目的とする次の工事

①換気扇等整備

②窓・網戸の整備

イ) 対象の備品 換気対策の効果確認及び事業所等にウイルスが入るのを防ぐための備品

①二酸化炭素濃度測定器

②サーマルカメラ、アルコール消毒器 など

・ 補助内容

補助率 1 / 2 (限度額: 工事 上限 50 万円 下限 5 万円、備品購入: 上限 10 万円 下限 5 千円)

・ 補助対象期間 10月1日(金)～令和4年3月18日(金)

・ 申請期間 10月15日(金)～令和4年2月28日(月)

・ 申請方法 申請書のほか必要書類を商工振興課まで(郵送可)

■ 予算額

12,817千円

(内 訳)

補助金: 12,000千円(工事: 50万円×20件、備品購入: 10万円×20件)

人件費: 817千円(会計年度任用職員)

■ 問い合わせ先

深谷市役所産業振興部 商工振興課 ☎048 - 577 - 3409

新型コロナウイルスワクチン予約・接種状況

令和3年9月29日

■ 接種率について

- ・ 接種状況 5月22日～9月26日

接種	65歳以上		全年齢（12歳未満も含む）	
	接種者数（人）	接種率（%）	接種者数（人）	接種率（%）
1回目	38,517	92.02	74,345	52.06
2回目	37,825	90.36	61,983	43.40

※全年齢の人口 142,803人（令和3年1月1日現在）

■ 受験生への優先接種枠を設定

深谷市では、新型コロナウイルスワクチン接種について、優先的な接種に配慮が必要なかたに、早期に接種ができるよう取り組んでおり、受験を控えた中学校3年生と高校3年生に対しても優先接種を実施します。

また、通常の予約枠も次のとおり接種体制を拡大し、予約受け付けを開始します。

1 中学校3年生を対象とした優先接種

10月に専用接種日を設定し、すでに予約受付を終了しています。

2 高校3年生を対象とした優先接種日

と き：1回目 10月 9日（土）午後1時30分～4時30分

2回目 10月30日（土）午後1時30分～4時30分

ところ：岡部公民館

3 深谷市接種会場の接種体制の強化

- ・ 個別接種会場の追加

深谷赤十字病院について、平日の夜間の時間帯と土曜日に接種日を設定

- ・ 集団接種会場の拡充

土曜日・日曜日の接種日を追加し、10月～11月の接種日を増設

4 上記2. 3の予約開始日時

9月27日（月）午前8時30分から予約受け付け開始済み

5 その他

優先接種体制については、妊婦の方に対しても、かかりつけ産婦人科等での接種体制を整備し、妊婦の夫またはパートナーに対しても専用接種日を設定しております。

深谷市独自の3段階調査の結果

深谷市ヤングケアラー支援のスタート

■調査の目的

学校において『ヤングケアラー』と思われる子供を早期発見し、教育と福祉が連携して、『ヤングケアラー』やその家族を支援する仕組みを構築し、確実に支援につなげます。

■調査の特徴

深谷市の調査の特徴として、国や県と異なり、3つの段階で調査を実施しました。

第1段階は、質問項目を厳選し、答え易さに配慮したアンケート。

第2段階は、教員による評価シートを用いた個別のチェック。

第3段階は、1・2段階を踏まえた生徒へ直接の聞き取り調査。

第1段階：アンケート調査

市内公立中学校全生徒3,746人を対象に、一人一台タブレットを用いた調査(3,532人が回答 回答率94.3%)

第2段階：評価シートでの個別のチェック(アセスメントシート)

担任が、アンケート調査の結果を受けて、気になる生徒の学校での生活の様子等を個別にチェック

第3段階：個別の聞き取り調査

本人が行っている具体的なケアの状況や、本人が抱えている悩みや不安について、直接の聞き取り調査

このような段階を踏むことで、より正確な実態把握に努めました。

■調査結果

3段階での調査を行った結果『ヤングケアラーの可能性が高い生徒』(ケアの負担が学校生活や日常生活に少なからず影響が出ていると思われる生徒)が27人(回答者の約0.76%)いることが明らかになりました。

■今後の予定

教育・福祉連携推進会議において関係各課・学校と調査結果を共有し、ヤングケアラーやその家庭への支援方法を検討し、深谷市におけるヤングケアラーへの支援体制を構築していきます。

■問い合わせ先

深谷市役所教育委員会教育部 教育研究所 ☎048-572-9456